

# アンコール遺跡 を解明する

ハイビジョンによる  
第4回アンコール遺跡調査報告会

INVESTIGATION OF THE ANGKOR MONUMENTS  
—FINDINGS CONCERNING THE STUDY OF THE ANGKOR MONUMENTS—  
(PRESENTATION BY HIGH-VISION SYSTEM)

1995年1月21日(土)午後1時00分～4時00分

会 場：松下電器情報通信システムセンター

主 催：上智大学アンコール遺跡国際調査団

後 援：文化庁

# アンコール遺跡 を解明する

—ハイビジョンによる  
アンコール遺跡調査報告会—

INVESTIGATION OF THE ANGKOR MONUMENTS  
—FINDINGS CONCERNING THE STUDY OF THE ANGKOR MONUMENTS—

(PRESENTATION BY HIGH-VISION SYSTEM)

1993年6月25日(金)午後6時30分～8時30分

会 場：松下電器情報通信システムセンター

主 催：上智大学アンコール遺跡国際調査団

朝日新聞社

後 援：文化庁

司会——坪井善明

アンコール遺跡調査13年——石澤良昭

初めてのアンコール遺跡発掘——中尾芳治

アンコールの大地を掘る——盛合禧夫

アンコール遺跡の建築構造調査——重枝 豊

アンコール遺跡の破壊とは——伊藤延男

●プロフィール

石澤良昭 (いしざわ・よしあき)

上智大学教授

1938年生、上智大学外国語学部卒、古代カンボジア史

1961年よりアンコール遺跡の研究に従事、パリ大学高等学術研究院で古代クメール語碑文学を研究  
調査団長

中尾芳治 (なかお・よしはる)

帝塚山学院大学教授

1936年生、京都大学文学部史学科卒

1960年より大阪・難波宮跡の発掘調査と研究、保存と、環境整備事業に従事  
第6次調査より考古学調査を担当

盛合禧夫 (もりあい・とみお)

東北工業大学教授

1932年生、東北大学理学部地学科卒、応用地質学

日本地すべり学会東北支部長、第4次より参加、地質学調査を担当

重枝豊 (しげえだ・ゆたか)

1954年生、日本大学理工学部卒、東南アジア建築史

主にクメール建築とベトナムのチャンバ建築の遺跡を中心とした建築構造の解明をすすめる  
建築調査担当

伊藤延男 (いとう・のぶお)

神戸芸術工科大学教授

1925年生、東京大学第一工学部建築学科卒

文化庁文化財保護部文化財監査官をへて東京国立文化財研究所所長などを歴任

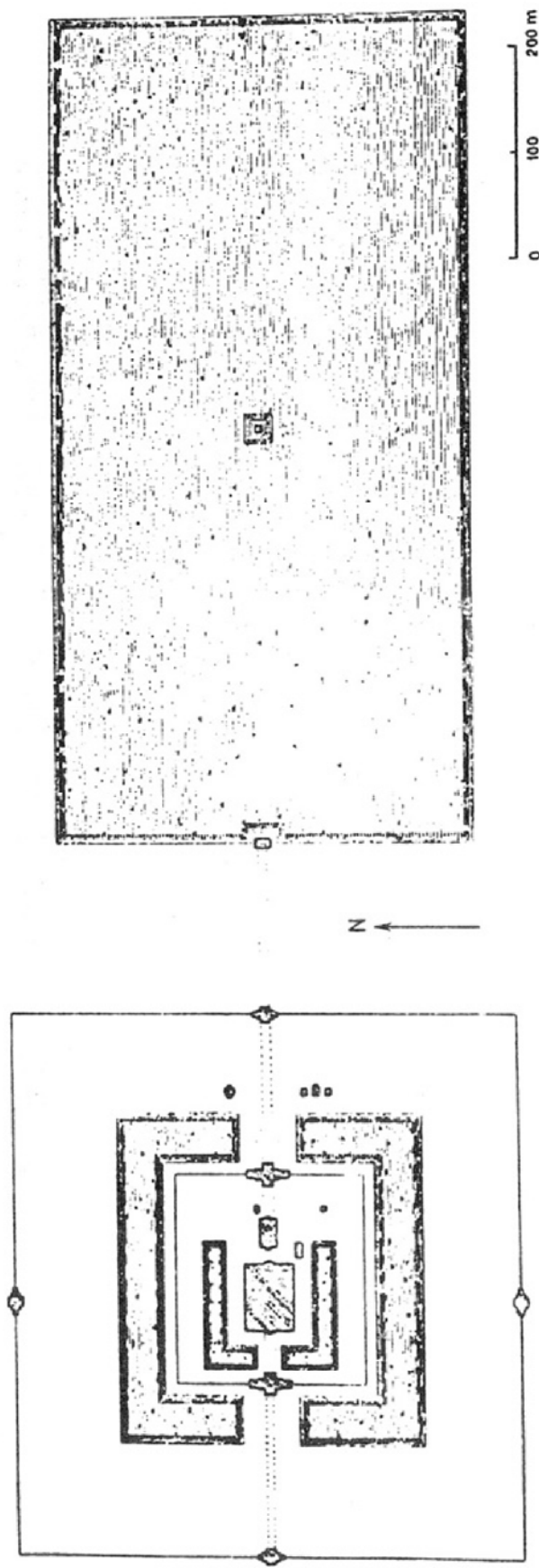
アンコール調査には第3次(1989年12月)より第6次、第8次に参加、指導的役割を果たす

坪井善明 (つぼい・よしはる)

北海道大学教授

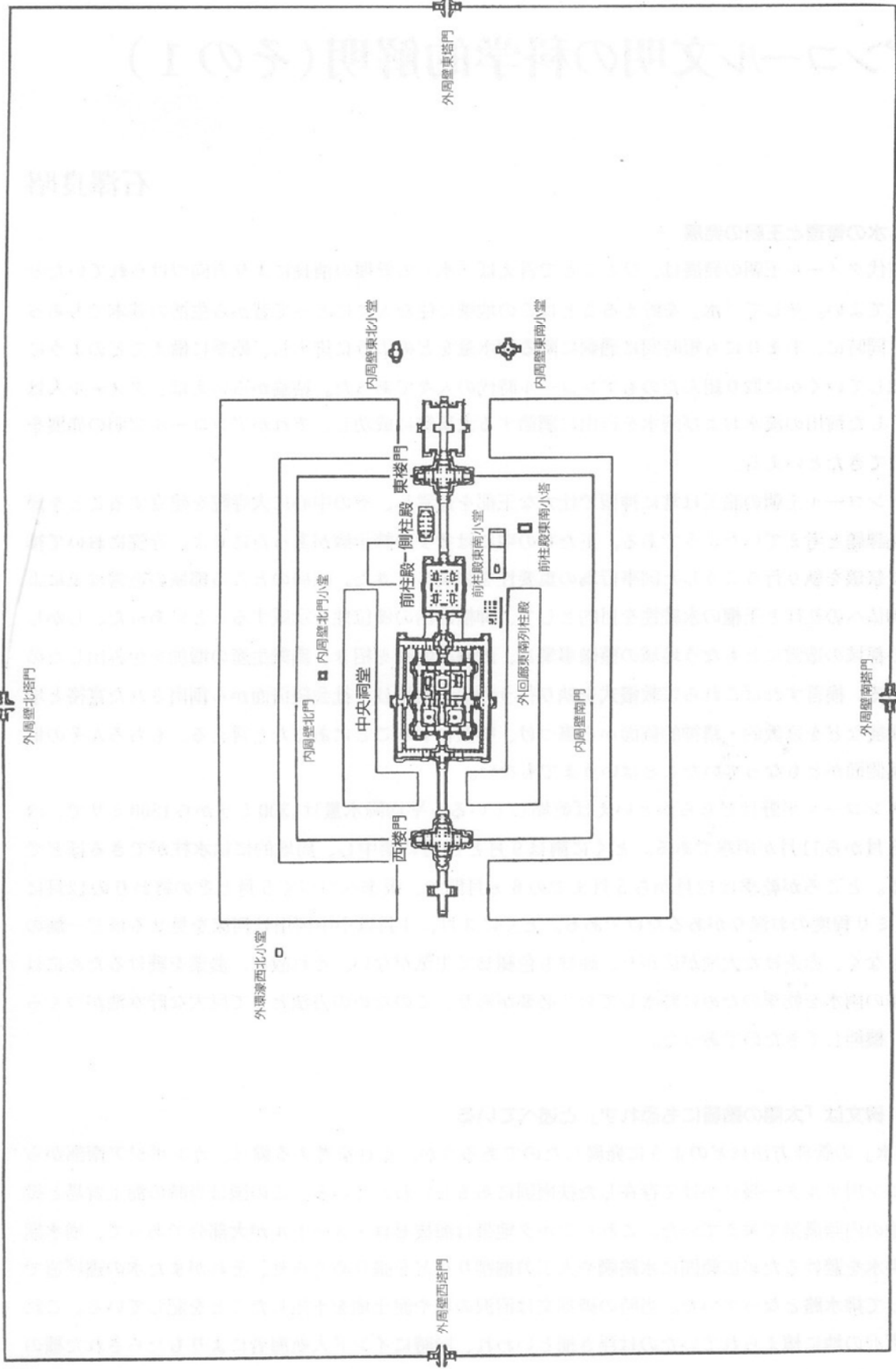
1948年生、東京大学法学部卒、インドシナ政治史

この2年間で調査団として、7度カンボジアを訪問する  
社会経済調査担当



バンテアイ・クダイとスラ・スラン

STERN Philippe, les Monuments du style khmer du Bayon et Jayavarman VII, PUF, Paris, 1965. より転載



バンテアイ・クディ配置図

## プログラム

- アンコール文明の科学的解明(その1)——石澤良昭  
アンコールワット西参道バンテアイ・クディ寺院の発掘調査——塚脇真二  
バンテアイ・クディ13次発掘調査報告——藤田幸夫  
バンテアイ・クディ遺跡の建築材料学的考察——清水五郎  
アンコール地域の文化遺産と自然環境——ラオ・キム・リアン  
自立を育む援助は可能か——坪井善明

### ●プロフィール

石澤良昭 (いしざわ・よしあき)

上智大学外国語学部長・教授

1938年生、上智大学外国語学部卒、古代カンボジア史

1961年よりアンコール遺跡の研究に従事、パリ大学高等学術研究院で古代クメール語碑文学を研究  
調査団長

塚脇真二 (つかわき・しんじ)

金沢大学教養部助教授

1959年生、東北大学大学院博士課程修了、理学博士、堆積学・海洋地質学

1980年より国内外での地質調査・海洋調査に従事、第8次より参加、地質学担当

藤田幸夫 (ふじた・ゆきお)

(財)大阪市文化財協会調査課長代理

1951年生、花園大学文学部卒

第11次、13次考古学調査を担当

清水五郎 (しみず・ごろう)

日本大学理工学部助教授

1938年生、日本大学理工学部建築学科卒、建築材料・施工

第11次より建築学調査担当

ラオ・キム・リアン

(財)日本品質保証機構環境計画センター主任

1954年カンボジア生、東京工業大学大学院博士課程修了、工学博士

1991年第5次より参加、環境アセスメント、通訳担当

坪井善明 (つばい・よしはる)

北海道大学法学部教授

1948年生、東京大学法学部卒、インドシナ政治史

この3年間で調査団として、10度カンボジアを訪問する

調査団副団長、社会経済調査担当